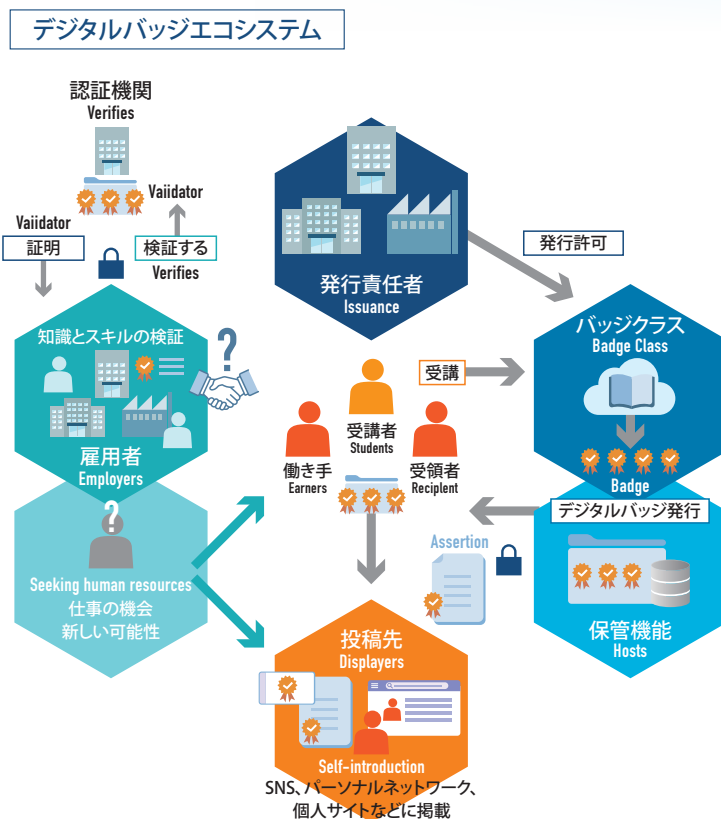


1 オープンバッジについて

デジタルバッジは学習活動の成果を「画像」と「標準化されたデジタルデータ」によって示します。獲得したバッジは世界中でその学習者だけの、ただ一つのもので、異なるプラットフォームの間で共有できる、直感的で分かりやすく信頼性の高いコミュニケーション・ツールとして、デジタルバッジは様々な分野におけるスキルの提示や人材の獲得に用いられています。

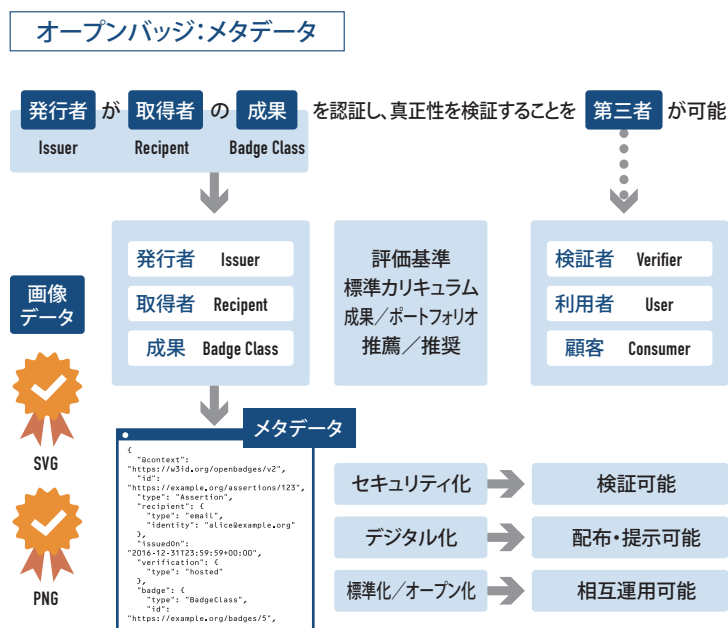


IMS Japan Home Page



2 オープンバッジの特徴

オープンバッジとは、バッジをデザインしたPNG/SVG画像に、学習成果に関する標準化されたメタデータをJSON-LD形式で埋め込むための仕様です。メタデータには、誰がバッジを獲得し、誰がそれを発行し、どんな学習成果を達成したかについてJSON-LD形式で記述されており、そのリンクを辿ることでメタデータの内容を検証することができます。オープンバッジは世界標準規格であることから、他サービスと連携が可能です。従来から学習成果データを蓄積しているLMSやSISはもちろん、HRDや人材採用システム、人材バンクなどのシステムと連携することで、人材の最適化・流動化を促進します。バッジという視覚化された知識・スキルに基づいたプロフェッショナルを示すことにより、スキル向上などの動機が向上し、学習する組織の評価を的確に実施することができます。



3 オープンバッジの導入事例

国内でもさまざまな機関からオープンバッジの導入がはじまっています。

【大学での発行事例】

法政大学（総長：廣瀬克哉）では、全学部共通科目「数理・データサイエンス・AIプログラム（略称MDAP）」や全学部共通の「各サテライトプログラム」において、所定要件を修了した学生を対象に一般財団法人オープンバッジ・ネットワークによるオープンバッジ（デジタル証明書）を導入しています。



法政大学が発行するバッジイメージ

従来の教育プログラム単位の修得状況を示す「成績証明書型」から、同大学が実施・目指している様々な教学改革事業の取り組みのうち、学生がどのような能力を修得したのかを示す「学修履歴型」へと対外的に証明するスキームの転換を目指しています。また、デジタル化の導入は社会との繋がりが強いDXの取り組みにも合致し、同大学が副学長プロジェクトの下に設置した「DXイニシアティブプロジェクト」に課せられた重要課題を解決する取り組みにも資するものです。

オープンバッジ受領者となる学生にとっては就職活動などにおいて信頼性の高いオープンバッジを示すことにより、修得した能力を示すことが可能となり、修得した能力や知識を可視化することにより、更なる学習意欲の向上に繋がることを見込んでいます。

出典：<https://www.hosei.ac.jp/info/article-20211202170749/>

【資格認定団体での発行事例】

日本ディープラーニング協会（JDLA）では、すべてのビジネスパーソンを対象としたデジタルリテラシー「Di-Lite」習得に向けて、デジタルリテラシー協議会により取得が推奨されている「G検定」や、ディープラーニングを実装する能力と知識の保有を示すエンジニア向け資格「E資格」においてオープンバッジの発行を開始しています。オープンバッジの発行により、デジタルリテラシーやスキルの学習・習得をする個人、そしてDX推進に取り組まれる企業・団体が、取得資格の証明をしやすくなることを目的としています。



JDLAが発行するバッジイメージ

4 部会の紹介

デジタルバッジ部会では、デジタルクレデンシャルに関する情報を部会員が共有するために、Slackを利用した情報交換や意見交換を常時行いながら、2カ月に一度程度のオンライン部会を開催して、部会員のデジタルクレデンシャルに関連する活動の共有とIMS Globalのデジタルバッジ部会の様子などを共有しています。オープンバッジの普及とともに、複数のオープンバッジをまとめる包括的学修履歴（CLR）への取り組みや、CASEなどへの研究を始めています。オープンバッジも現行のVersion 2.0から、W3C Verifiable Credentialに準拠したオープンバッジ3.0への移行も始まるので、更に、会員間での情報共有と技術共有を進め、新

たな会員を増やしながら日本におけるエコシステムの構築を目指して活動しています。



Competencies and Academic Standards Exchange

お問い合わせ

一般社団法人 日本IMS協会



一般社団法人日本IMS協会事務局

E-mail : contact@imsjapan.org
<https://www.imsjapan.org/> (IMS Japan Society)
<https://www.imsjglobal.org/> (IMS Global Learning Consortium)



IMSJ



IMS GLC